



ドミニカ共和国への訪問について

1 概要

1月14日(日)～1月22日(月)、文化観光国際課、東京オリンピック・パラリンピック推進担当室、一般社団法人松戸市観光協会、梨育成技術者で下記目的のためドミニカ共和国(以下、「ドミ共」と言う。)を訪問しました。

2 目的

①平成28年11月、ドミ共農地庁エミリオ・トリビオ長官が本市を訪れた時に交わした「梨の交流に関する覚書(別紙)」に基づき、梨の苗木をドミ共内で植樹し、あわせて、技術指導・ドミ共内での受け入れ態勢の支援・今後の業務遂行に関する調整をします。

②2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に関して、ドミ共選手が本市において事前キャンプを行うために、まずは本市施設の視察のため関係者を招へいします。

3 日程 平成30年1月14日(日)～1月22日(月) (9日間)

4 メンバー

経済振興部	文化観光国際課	参事監兼課長	白井 宏之(団長)
総合政策部	政策推進課	東京オリパラ推進担当室 室長	石井 邦彦(副団長)
経済振興部	文化観光国際課	主査	中平 治(随行者)
	(一社)松戸市観光協会	常務理事	須田 昌彦(随行者)
	(一社)松戸市観光協会	事務次長	綿引 純男(通訳)
千葉県指導農業士	東洋梨育種研究家		田中 茂 氏(梨の技術指導)

<田中 茂 氏プロフィール>

昭和27年5月生まれ 千葉県白井市在住

野菜と梨の「田中園」を経営

韓国・中国において、梨の育成の技術指導に携わる。また梨の新品種の育種にも力を注ぐ。

現在 千葉県指導農業士、東洋梨育種研究家 社団法人 日本果樹種苗協会 賛助会員

韓国 国立全南大学校 梨研究指導員 中国 梨研究指導員

公益財団法人日本シルバーボランティアズ会員 (No.AG464)

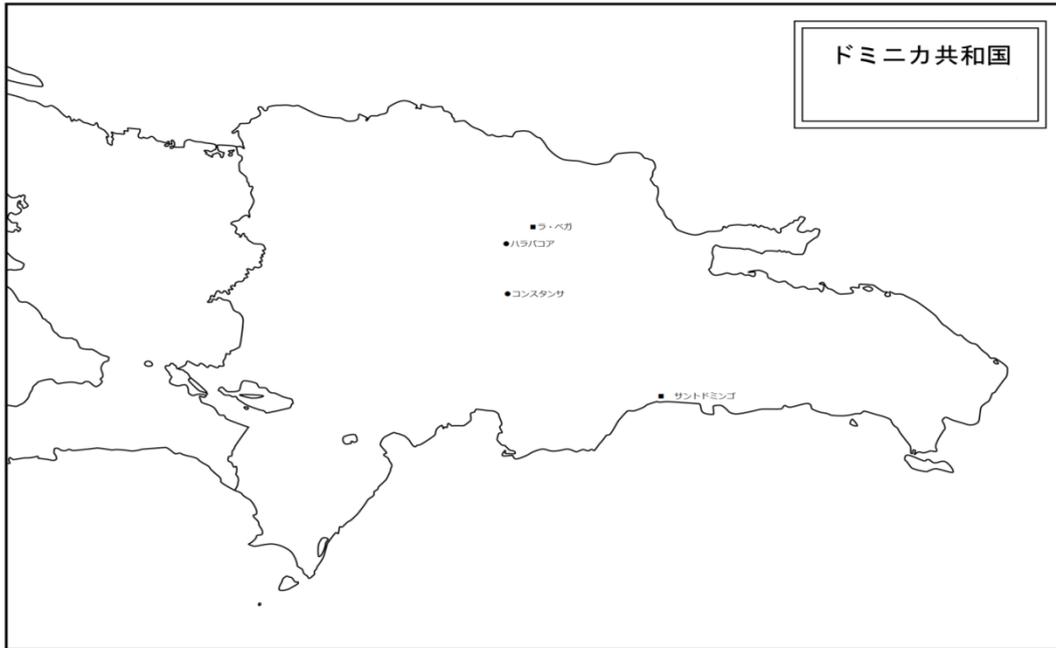


<農林水産省 登録済み品種>

里水	第 26439 号	あきひめ	第 26440 号
陽香	第 26441 号	秋ゴールド	第 27451 号
秋のほほえみ	第 27452 号		

5 成果

- ① (A) ドミ共農牧林研究所管轄の試験場敷地（ラ・ベガ州コンスタンサ市、標高 1200m）において、梨の苗木（秋ゴールド）25 本を植樹し、今後は、研究所職員が試験栽培をしていきます。
- (B) 梨の苗木育成に関するドミ共側の受け入れ態勢に関する今後の相互連絡先を確認し、来年度においても、本市から技術者等の派遣、ドミ共の技術者の研修受入れ等についての相談を行いました。
2020 年東京オリンピック・パラリンピックの年に、最初の実がなることを目標に双方努力していくことで合意しました。
- (C) 日本人移民の多いラ・ベガ市（人口約 30 万人、標高 90m）・ハラバコア市（人口約 9 万人、標高 800m）・コンスタンサ市（人口約 8 万人、標高 1200m）の日本人会との交流を行いました。
- (D) 「梨の交流事業」に関するドミ共内の関係省庁（農地庁・農務省・外務省）と情報交換を行い、相互協力の意思確認をしました。
- ② (A) 東京オリンピック・パラリンピック大会に関して、ドミ共選手が本市において事前キャンプを実施するための関係者による本市視察に関し協議しました。その結果、オリンピック委員会及びバレーボール・ソフトボール・空手・テコンドーの各連盟から合計 5 名が平成 30 年 6 月～8 月を目安として、本市を訪問することで合意しました。なお、その際、渡航費を含めた日本滞在費を本市側が負担することになりました。
合意を取り交した文書については、後日、ドミ共側がサインした「合意書」が在ドミ共日本大使館経由で日本国外務省に送付され、本市市長の署名後、ドミ共に「合意書」を送付することになりました。
- (B) 東京オリンピック・パラリンピック大会でのドミ共選手の事前キャンプ誘致に関するドミ共内の関係省庁（スポーツ省・外務省）と情報交換を行い、相互協力の意思確認をしました。
- ③ 在ドミ共日本大使館大使・牧内氏と今回の訪問目的である「梨の交流事業」・「東京オリパラ大会でのドミ共選手の事前キャンプ誘致」に関して、情報共有・意見交換を行い、大使館の協力を約束いただきました。
- ④ JICA ドミ共事務所所長と「梨の交流事業」に関する情報共有・意見交換を行い、JICA ドミ共事務所としての協力を約束いただきました。



6 これまでの経緯

- 2015年 9月 外務省との共催事業「駐日外交団ツアー」を実施
駐日ドミ共大使館 エルネスト・トーレス・ペレイラ公使参事官（当時）が参加される。
- 2015年 12月 駐日ドミ共大使館 エクトル・ドミンゲス大使 本市長表敬訪問
- 2016年 6月 織原副市長（当時）を団長とする訪問団がドミ共を訪問
- 2016年 11月 ドミ共エミリオ・トリビオ農地庁長官が来松され、「梨の苗木に関する覚書」を交わす。
- 2017年 2月 梨の苗木（幸水・豊水・新興）を検疫に出したところ、禁止ウイルスの一つ（Apple stem grooving virus）が検出される。
- 2018年 1月 梨の苗木（新品種である秋ゴールド）30本のうち、25本が検疫を通過し、ドミ共に送付

7 訪問内容詳細（別添報告書を参照）

【問い合わせ先】

<梨の交流関係>

- ・経済振興部文化観光国際課 ☎047-366-7327

<オリンピック・パラリンピック関係>

- ・総合政策部政策推進課東京オリンピック・パラリンピック推進担当室

☎047-366-7072

ドミニカ共和国訪問詳細内容

【1月14日（日）】 羽田空港出発（ニューヨーク経由）
 ドミ共 サントドミンゴ国際空港に到着
 ドミ共 ビルマニア・マレナ外務省職員の
 出迎え後ホテルへ



【1月15日（月）】 （ ）内はドミ共側の参加者

① 9:30～11:20 ドミ共 農地庁表敬訪問

(エミリオ・トリビオ農地庁長官・ファウスト・ラモス副長官（国際協力担当）・生産部長・総務財務部長・長官補佐官・在日ドミ共大使館エクトル・ドミンゲス大使夫妻等)



(A)ドミンゲス大使より

*これまでの本市とドミ共の交流に関する感謝の言葉。

(B)トリビオ農地庁長官より

*2016年11月に本市を訪問した際のお礼とともに、今回の梨事業推進についての感謝の盾を頂きました。

*ドミ共大統領が農作物の推進を掲げているので、この梨の交流事業もそれに呼応させたい旨の発言を頂きました。

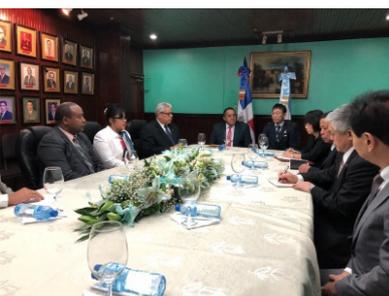
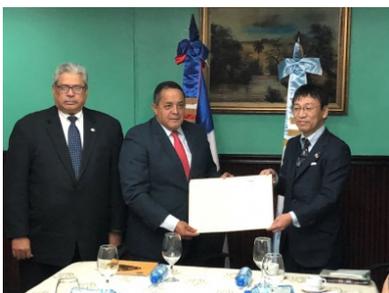
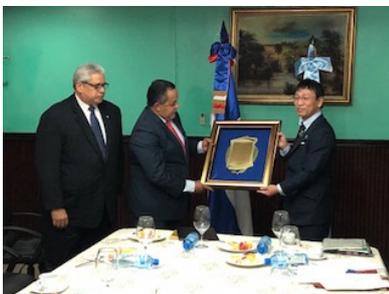
*梨自体を知らない国民がほとんどなので、新しい作物活性化に寄与できるのではないかと期待を表明されました。

(C)白井団長より

*梨の交流事業について、梨の苗木の送付状況を説明するとともに、市長からの親書を手渡しました。

(D)意見交換

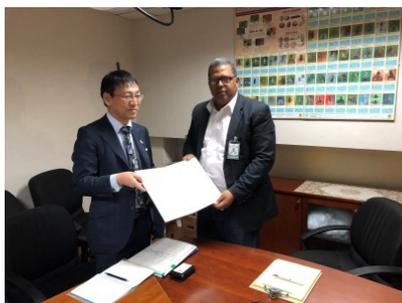
*他の農作物についての支援について意見交換を行った結果、ドミンゲス大使より「ぶどう」トリビオ長官より「イチゴ」「枝豆」に関する支援についての希望を受けました。特にイチゴ、ぶどうなどのフルーツは、将来的に、学校給食に出したいと考えているようでした。



② 11:40~12:30 ドミ共 農務省表敬訪問

(農務省マヌエル・デュラン検疫部次長・農務省クリスティノ・カスティジョ技術部長・農地庁ファウスト副長官)

(A) 白井団長より



* 今回の梨の苗木送付手続きにあたってのお礼を述べるとともに、市長からの親書をお渡ししました。

* 今回の梨の苗木送付スケジュールの報告後、苗木の検疫条件である「Apple stem grooving Virus」の除外など緩和措置をお願いしました。

(B) デュラン検疫部次長より



* 検疫は、農務省管轄、植樹は農地庁管轄であるが、事務の簡素化に努めたいと考えている旨のお話がありました。

* 苗木の検疫条件から、「Apple stem grooving Virus」を除外することに関しては、他国の状況などを含め、本当に影響がないのかを含めて、再度検討したいとのことであり、ドミ共としては、梨は初めてのケースのため、

「Apple stem grooving Virus」の資料なども集めて、国レベルの交流という点も考慮に入れて検討したい旨のお話がありました。

(C) 農地庁副長官より



* 次回より、「Apple stem grooving Virus」を検疫条件からはずすことに対して、今回は、農地庁管轄の農業試験場に用地(472㎡)を設けて植樹することを考えており、今後は追加で1haの用地も追加で検討しているので、それを基に検疫条件を緩めていくことを後押ししたいこと、今回の梨のプロジェクトの実施機関は農地庁なので、農地庁が責任を持つことについてのお話がありました。

③ 16:00~16:30 在ドミニカ共和国日本大使館表敬訪問

(日本大使館 牧内博幸特命全権大使・村上1等書記官)

(A) 白井団長より

* 今回の訪問の目的説明

(B) 牧内大使より

* 2020東京オリパラのドミ共選手のキャンプ誘致は、カープ・アカデミーの関係で広島県北広島町も柔道・陸上などを考えているが、日程調整に苦慮している経過があり、ドミ共相手の交渉には忍耐がいるとの助言を頂きました。

* 日本大使館としても、松戸市の動き(梨の交流事業・オリパラ事前キャンプ誘致)は見守りながら、できる限りの協力をしたいとお話を頂きました。



【1月16日（火）】（ ）内はドミ共側の参加者

① 9:30～10:45 ドミ共 オリンピック委員会表敬訪問

(オリンピック委員会アントニオ・アコスタ事務局長・バレーボール連盟ネルソン・ラミレス会長・クリストバル・マルテ副会長兼国際連盟理事・ソフトボール連盟ガリバルディ・パウティスタ会長・空手連盟ホセ・ラミレス会長・テコンドー連盟フランシスコ・カマチョ会長・日本大使館牧内大使)

(A) オリンピック委員会アコスタ事務局長より

*各連盟との今後についての活発な議論を期待する旨の挨拶

(B) 牧内大使より

*松戸市とドミ共との交流は、外務省主催の駐日外交団ツアーから始まった経緯を説明いただき、交流を積極的に進めている市役所の1つであるとのことをお話いただきました。

(C) 白井団長より

*感謝の言葉を述べるとともに、市長からの親書をお渡ししました。

(D) 各連盟より

*各連盟とも競技用具の提供・指導者の派遣なども考慮に入れてほしいなど、一番の問題は資金がないこととの話があり、これがクリアできれば、今後様々な形で交流することも可能との話がありました。

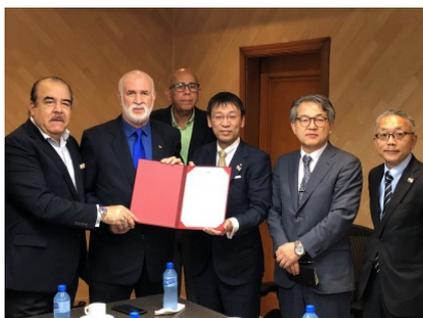
*2020年東京オリンピックの事前キャンプのための現地視察に関して、時期や渡航費も含めた経費負担について、質問がありました。

(E) 石井副団長（東京オリ・パラ推進担当室長）より

*各連盟の代表1名及びオリンピック委員会1名の計5名分の、本市訪問団に対する渡航費を含めた日本滞在費を本市側負担として約束するので、この条件で視察に来てもらいたいこと、時期としては今年の6月～8月を考えていることを答えました。その他の援助については持ち帰り検討すると答えました。

(F) ドミ共オリンピック委員会として

*本市の条件を歓迎し、今後、具体的な日程や訪問メンバーを検討し、連絡をもらうことになりました。また、現地視察に関する「合意書」にもサインし、滞在中に受け取る予定でしたが、結果として受け取れず、日本大使館・外務省経由で受け取ることになりました。

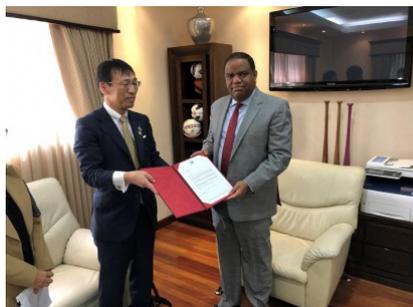


② 11:00～11:30 スポーツ省表敬訪問

(スポーツ省 ダニロ・ディアス大臣等)

(A) 白井団長より

*オリンピック委員会との合意内容(事前キャンプ誘致に伴う現地視察の実施、技術協力や用具の問題などは今後の検討とすること)について説明するとともに、市長からの親書をお渡ししました。



(B) スポーツ大臣より

*スポーツ省としては、ドミ共スポーツ振興にあたって東京オリパラを1つの契機として捉えているとの発言がありました。

*現地視察に関しては、スポーツ省として派遣することも考えているので、オリンピック委員会と話をしたい旨の発言があり、それとは別に2月以降スポーツ省から、日本への派遣も考えているとのことでした。

*事前キャンプの際には、松戸市民、子どもたちとの交流など積極的な交流は当然のことと考えているので、オリンピック委員会にも伝えておくとのことでした。

*松戸市における4つの競技の事前キャンプ実施については、スポーツ省の強化方針とも合致しているので、サポートしていきたいとのことでした。



③ 15:00～15:45 JICA ドミニカ共和国事務所表敬訪問

(山田章彦 JICA ドミニカ共和国事務所所長・石橋次長・猪熊企画調査員)

(A) 白井団長より

*今回の訪問の目的を説明するとともに、今後のJICAの支援についてお願いしました。

(B) 山田所長より

*基本的には、東京事務所が窓口になるが、現地事務所として、できる限りのサポートをしたいとお話でした。

*オリンピック委員会で要望のあったコーチ派遣について質問したところ、JICA ボランティアとして、メキシコ・キューバ・ドミニカ共和国にスポーツコーチを派遣している実績の概要について説明を受けました。

(C) 石橋次長より

*ドミ共内の関係機関と密に連絡をとり、関係強化を図っていきたいとの発言があり、今年度は、環境省が農業植林年と設定していることを助言いただきました。

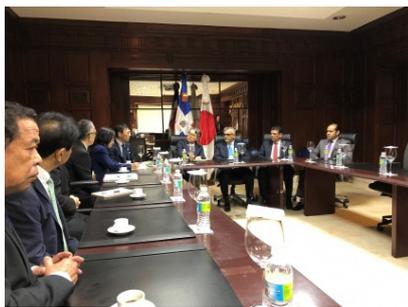


【1月17日(水)】()内はドミ共側の参加者

① 10:30～12:00 外務省表敬訪問

(カルロス・ガルシア外務次官・ラモン・サンチェス庁内責任者・ミッチェル観光ス

ポーツ文化交流担当)



(A) 牧内大使より

*日本とドミ共のこれまでの関係を説明して頂きました。

(B) 白井団長より

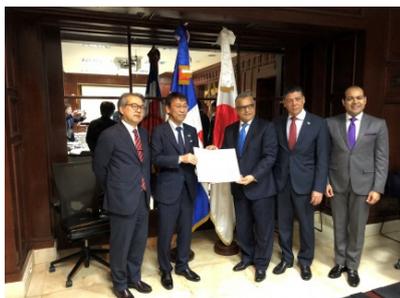
*本市とドミ共との今までの経緯を説明するとともに、市長からの親書をお渡ししました。

*梨交流事業の概要を説明し、2020年東京オリパラの年にドミ共に梨の実がもたらせるようにしたいことを話しました。

*2020年東京オリパラのドミ共選手の事前キャンプ誘致に伴う現地視察について、ドミ共オリンピック委員会と合意したことを報告しました。

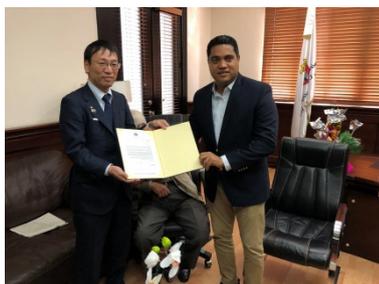
(C) 外務省より

*コンスタンサ市以外では梨が育たないのか、松戸市は東京に近いのに寒暖差があるのかなどの質問がありました。



② 14:00~14:30 ラ・ベガ市役所 市長表敬訪問

(ケルビン・カセレス市長・市議会議長・秘書官・広報部長・犬山孝ラ・ベガ日本人会会長他2名)



(A) 白井団長より

*今回の訪問の目的を説明するとともに、市長からの親書をお渡ししました。

(B) カセレス市長より

*梨の交流事業に対して、ラ・ベガ市はラ・ベガ県の県都なので、期待しているとの発言がありました。標高の関係、ラ・ベガ市(標高90m程度)では梨の生育は難しいは承知しているが、何とか植樹できないかとの要請ことで受けました(梨の専門家の田中氏より、再度、標高の関係で難しい旨を説明し了解を得ました。)

*今後とも本市とラ・ベガ市との友好関係が深まることを期待しているので、できる限り協力するとのことでした。

*本市で受け入れる研修に対して詳細を教えてくださいとの要望がありました。

(白井団長より、研修の件は、農地庁が相手方となっているので、農地庁と相談の上、情報提供することを約束しました。)

(C) 白井団長より

*いちご・ぶどう・枝豆などの育成についても協力してほしい旨、農地庁・農務省から要請をもらっているため、ラ・ベガ市としても対応できるものがあれば協力してほしい旨を話しました。





- その後、ラ・ベガ市日本人会の犬山会長所有の別荘にて、日本人会との懇談の場を持ちました。

【1月18日（木）】（ ）内はドミ共側の参加者

① 10：05～11：30 ハラバコア市役所 市長表敬訪問

(カルロス・サンチェス市長・マリセラ市議会議長・浜田ハラバコア日本人会会長・立山氏)



(A) 白井団長より

* 今回の訪問の目的を説明しました。

(B) サンチェス市長より

* 梨の交流事業については、できる限り参加したいと考えている旨の発言がありました。

* この梨の交流事業は大変重要で、日本人移民者から昔、野菜の作り方を学び、それによって生計を立てている人もいて、大変感謝している経緯もあり、梨の交流事業の成果がみられれば、野菜の時と同様に大きな経済効果が得られる可能性があるとのことでした。

* 日本人会の日高氏と共に、友好関係のある広島市を訪問したいと考えており、場合によっては、松戸市を訪問することも考えられるとの発言がありました。



* ハラバコア（標高 800m）では、ポンカン・すもも・柿・イチゴを生産していて、特に、イチゴは、ドミ共一の生産量であるとのことでした。また、ハラバコア市は、ドミ共国内のエコツーリズムのメッカであり、週末の交流人口は約 1 万～2 万人とのことでした。

* ドミ共の空手選手は、皆ハラバコア市出身なので、あらためて空手選手を育成していきたいと考えているとのことでした。

(C) 白井団長より

* 今後、コンスタンサ市にある農業試験場にて、梨を育成し、そこでうまくいけば、ハラバコア市での梨栽培についても相談し、更なる友好関係を築いていきたいことを話しました。

【1月19日（金）】（ ）内はドミ共側の参加者

① 9：00～10：00 コンスタンサ市役所 市長表敬訪問

(アンビオリクス・サンチェス市長・エベリン副市長・アンヘリート・サンチェス市議会議長・脇輝亀コンスタンサ日本人会会長他 1 名)



(A) 司会より

* コンスタンサ市・本市列席者紹介

(B) 市議会議長挨拶

* 歓迎挨拶

(C) 市長より

* 歓迎お礼挨拶



*梨の交流事業についての説明

- セレモニー終了後、本市訪問団一人一人に感謝状が贈呈されました。

② 11:00～12:15 梨の交流事業の概要説明(農地庁管轄試験場コンベンションホール) (トリビオ農地庁長官・コンスタンサ市長・農牧林研究庁ラ・ベガ県所長他)

(A) トリビオ長官より

*挨拶

(B) 列席者より

*挨拶

(C) 白井団長より

*挨拶

(D) 田中氏(梨の専門家)より

*苗木の植え方のレクチャー

(E) 質疑応答(回答者は田中氏)

*経済的に余裕がない人が多いが、費用負担が多いときついので、
棚方式は難しいのではないかと

*この事業は女性でもできるのか?

*実がなるにはどれくらい時間がかかるのか?

などの質問がありました。



- その後、コンスタンサ市内にある日本人会の佐藤氏の農園見学。
(トリビオ農地庁長官 同行)

- コンスタンサ日本人会との交流会



【1月20日(土)】()内はドミ共側の参加者

① 10:00～12:00 梨の苗木25本植樹(農牧林研究庁管轄試験場内専用敷地にて) (トリビオ農地庁長官・ドミンゲス在日ドミ共大使他関係者)

*梨の苗木25本(秋ゴールド)を田中氏(梨の専門家)指導の下、植樹しました。

(トリビオ長官・ドミンゲス大使・白井団長で植樹式)

*農地庁ラ・ベガ県所長より、市内のラ・クラタ入植地の生産者組合(組合員約150名)を今後のカウンターパートグループとして紹介されました。試験場で生育が進んだ段階で、穂木を入植地の台木に接木し増やしていくことが考えられ、その技術的指導として、コンスタンサ農牧林研究庁所長のカレリン・フェルナンデス技師にも仲介を依頼しました。





【1月21日（日）】ドミ共 サントドミンゴ出発（ニューヨーク経由）
1月22日（月）羽田空港到着

覚 書

ドミニカ共和国農地庁と日本国 千葉県松戸市は(以下、両者と呼ぶ)、梨の交流について、以下のとおり覚書を締結する。

1 梨の苗木について

松戸市は、2016 年末または 2017 年中※に梨の苗木を送付すること、ドミニカ共和国農地庁は送付された苗木の育成・研究をする。

※税関と輸入承認待ち

2 梨の育成・研究について

松戸市は、梨の苗木の育成に関し JICA による専門家の派遣・研修員の受入れ等を通じて技術指導を行い、代わりに、ドミニカ共和国農地庁は、その指導のもと育成・研究に努め研究成果を公表する。研究成果をもとに両者は今後の方針を別途協議する。

3 今後について

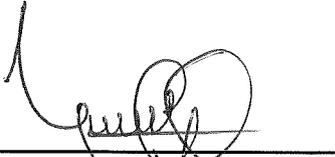
上述の梨の交流に加え、両者は、今後はそれ以外の農業分野においても交流できるかどうかを模索し、今後は別途協議して合意するものとする。

4 その他

本覚書について、変更等が必要な場合は、両者が協議の上、解決を図るものとする。

2016 年 11 月 15 日

日本、松戸市



ドミニカ共和国
農地庁 長官
トリビオ・エミリオ



日本国 千葉県 松戸市
市長
本郷谷 健次